

平成29年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（大島）

1. 集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：大島

協定締結集落名：大島漁業集落

交付金額：4,278千円

(1) 基本交付金：4,278千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：31世帯、55人（うち漁業世帯31世帯、55人）

都道府県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入(直近3年平均) 3,497,223円

集落の平均漁業者所得 685,100円（平成28年）

2. 協定締結の経緯

佐伯市大島周辺の海域は、典型的なリアス式海岸であり多数の天然礁を有する佐伯湾、天然礁回遊魚の漁場を多く有する豊後水道に面しており、良好な自然環境に恵まれている。地元漁業者は主に一本釣漁業を営んでおり、マダイ、イサキ、ブリ類を主な魚種として漁獲している。大島周辺の浅場は、水産資源の幼稚仔の育成場としても重要な役目を担っている。これまで、地元漁業者がこれらの海域環境を適切に管理することにより、これを保全するとともに周辺水域の有効利用を図ってきた。

しかしながら、漁業が基幹産業である佐伯市大島地区においても、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま放置すれば、大島地区の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も低下する可能性がある。

このため、大島地区は、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する集落での話し合いを通じて集落機能を再編し、必要な場合には既存の慣行を見直し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組める環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施する必要があることから、その取組の継続を下支えするために離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

○種苗放流により資源の維持、増大を図った。

平成29年10月13日		放流数	サイズ (mm)	経費 (円)
種苗放流	イサキ	50,000尾	84.1	1,780,108

○漁場維持のため、有害動植物（サメ）の駆除活動を実施した。

実施日	参加隻数（隻）	参加人数（人）
平成29年7月28日	19	22

②漁場の再生に関する実践的な取組状況

○新規養殖業への着業に向けて、二枚貝の養殖についての可能性をはかるため、二枚貝養殖にかかる検討・試験養殖を開始した。

○大島の天然イサキ・マダイの加工品開発に向けた取組を実施した。

○シーフードショー大阪に大島の魚を出展し、PRした。

4. 取組の成果

①種苗放流については、地元漁師が漁獲する主な魚種であるイサキの放流を平成22年度から行っている。今年度も前年度同様にイサキに限らず全体的に不漁であった。荒天や海水温の低下等の環境的要因が大きいのではないかと思われるが、今後も引き続き実施し、水揚量及び水揚金額の増大を期待したい。



イサキ種苗放流（H29.10.13）

②有害動植物の（サメ）駆除活動は、これまで地元漁師が釣った魚に対して、船上へ釣り上げるまでにサメの食害に遭うことが度々あり、釣ったはずの漁獲物の被害に併せて仕掛け（漁具）損失の被害もあり、売上減少及び経費増大という二重の損失に悩まされてきたため、昨年度から駆除活動を実施した。駆除活動実施後は一定の期間サメの食害に遭うことがなくなり、地元漁師も活動の効果を実感しているため、今後も引き続き取り組んでいくこととした。



有害動植物（サメ）の駆除活動

（H29.7.28）

③ 前年度から新規養殖業への着業に向けて、二枚貝の養殖についての可能性をはかるため、イワガキの試験養殖を開始した。

今年度は、前年度垂下した種苗の成育調査を実施するとともに、養殖方法については、カゴ方式を採用し、ばらし作業を行った。

また、養殖試験区の拡張をし、新たな種苗を導入し、試験区については、地下地区に絞り、昨年度小学校前に設置した資材の移設も行った。



二枚貝試験養殖ばらし作業 (H29. 11. 27)



二枚貝養殖試験区拡張作業 (H30. 2. 14-15)

④市農林水産総務課のブランド担当の協力により実施。一本釣りで釣り上げた大島の天然イサキ・マダイの加工品開発に向けた取組を実施した。

イサキ・マダイの刺身の商品化に向け、市内の加工で高い技術を有する事業者へ加工を依頼し、官能試験を実施。

イサキについては、刺身での商品化を目指すには、まだまだ研究が必要であるが、マダイについては商品化の可能性があるため、引き続き商品化に向けて取組をすすめていくこととなった。



イサキ・マダイの加工品開発 (H29. 11. 15)

⑤佐伯市農林水産総務課（ブランド担当）及び大分県漁業協同組合の協力により実施。大島で獲れる魚介類を県外にPRするとともに、バイヤーのニーズ把握、商談を行うことを目的としてシーフードショー大阪に出店を行った。

鮮魚BOXに興味を示す人もかなりいて、今後の商談の糸口になり得るものもあった。ただ、鮮魚BOXは安定供給体制が難しいことや、値段が高いという意見もみられた。



シーフードショー大阪出展 (H30. 2. 21-22)